

2018年度

業績の概要

2019年5月24日



大樹生命保険株式会社

1. 決算のポイント	… P 1
2. 収支の状況	… P 2
3. 新契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕	… P 3
4. 保有契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕	… P 4
5. 保有契約の状況〔団体保険・団体年金保険〕	… P 5
6. 損益計算書	… P 6
7. 貸借対照表・健全性	… P 7
8. 有価証券の含み損益	… P 8
9. 契約者配当及び株主配当について	… P 9

1. 決算のポイント

- 2018年度決算は、増収・減益
 - ✓ 保険料等収入は、経営統合シナジーの一環として、2017年10月より開始した日本生命への一時払外貨建養老保険「ドリームロード」の商品供給が奏功し増収
 - ✓ 基礎利益は、利差損益が改善したものの、危険差益が減少したことにより減益

- 保険成績
 - ✓ 新契約業績は、契約高・年換算保険料は増加、件数は減少
 - ✓ 保有契約業績は、件数・年換算保険料は増加、契約高は減少

- 健全性を示すソルベンシー・マージン比率は、前年度末から61.9ポイント増加の1,132.2%

- 契約者配当（個人保険・個人年金保険）を11年ぶりに実施。また同様に株主配当も実施予定

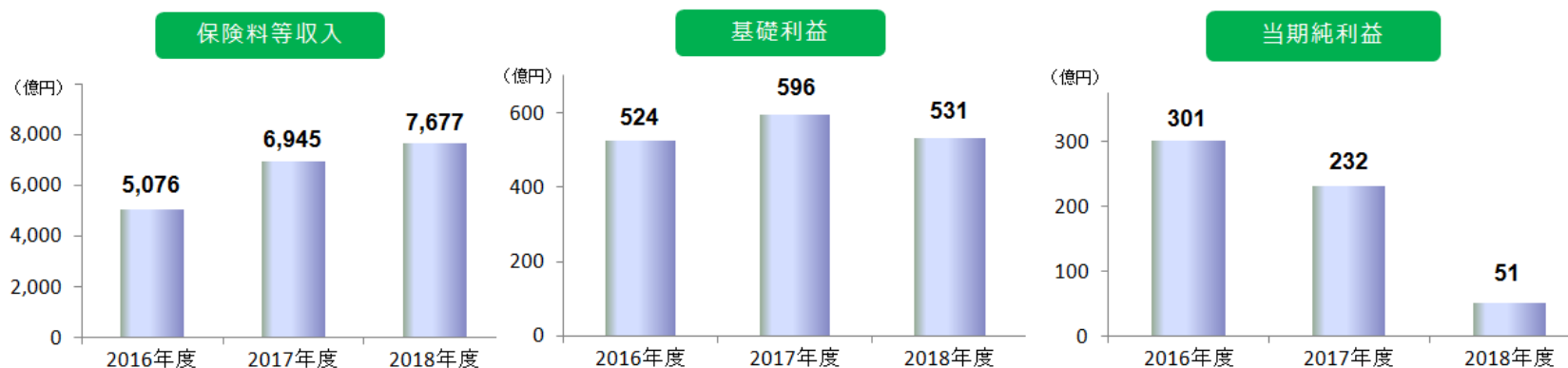
2. 収支の状況

- 保険料等収入は、2017年10月より開始した日本生命への一時払外貨建養老保険「ドリームロード」の商品供給が奏功したことを主因に、前年度比10.5%増の7,677億円。
- 基礎利益は、利差損益が予定利息負担の減少等により改善したものの、危険差益が料率改定等により減少したこと等から、前年度比10.9%減の531億円。
- 当期純利益は、内部留保の充実を図るため危険準備金の繰入（超過繰入）を行ったこと、社名変更に伴う費用を特別損失に計上したこと等から、前年度比77.8%減の51億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2017年度	2018年度	前年度比 増 減 率
保険料等収入	6,945	7,677	+ 10.5
基礎利益	596	531	▲ 10.9
利差損益	▲ 313	▲ 258	△ 17.4
費差損益	72	60	▲ 16.5
危険差益	836	729	▲ 12.8
当期純利益	232	51	▲ 77.8

(注) 増減率の“△”は改善。



3. 新契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

- 日本生命への一時払外貨建養老保険「ドリームロード」の商品供給が奏功したことを主因に、新契約高は、前年度比10.8%増の1兆1,333億円、新契約年換算保険料は、前年度比9.3%増の532億円。

(単位:千件、億円、%)

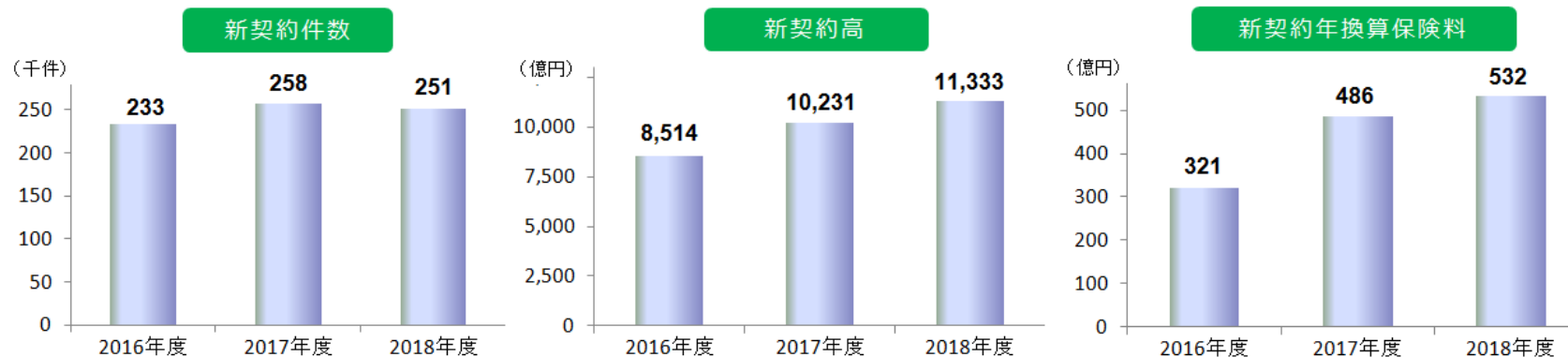
区 分	2017年度	2018年度	
		2018年度	前年度比 増減率
新契約件数	258	251	▲ 2.6
新契約高	10,231	11,333	+ 10.8
新契約年換算保険料	486	532	+ 9.3

(注)「新契約件数」は、新契約に転換後契約を加えた数値。

<参考> 日本生命との商品相互供給により販売している保険商品の新契約年換算保険料

◆ 当社から日本生命へ商品供給 ※上記計表の新契約年換算保険料に含まれています。 (単位:億円、%)

「一時払外貨建養老保険 ドリームロード」	95	186	+ 95.6
◆ 日本生命から当社へ商品供給 「通増定期保険 経営サポート」 「ニッセイ学資保険」「ニッセイこどもの保険 け・ん・ぎ」 「プラチナフェニックス」	13	39	+ 184.5

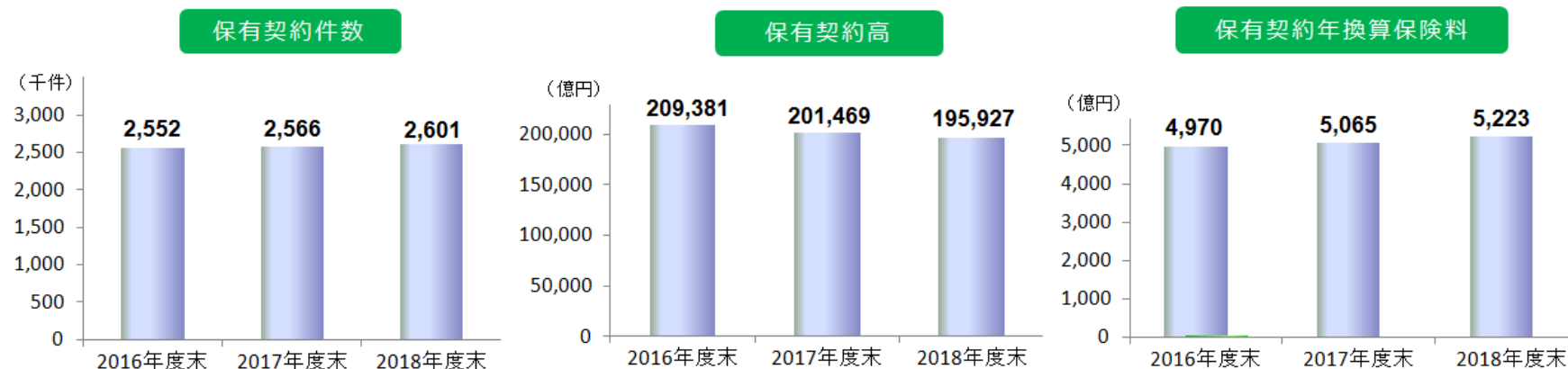


4. 保有契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

- 保有契約年換算保険料は、日本生命への一時払外貨建養老保険「ドリームロード」の商品供給が奏功したことを主因に、前年度末比3.1%増の5,223億円。

(単位:千件、億円、%)

区 分	2017年度末	2018年度末	
		2018年度末	前年度末比 増減率
保有契約件数	2,566	2,601	+ 1.4
保有契約高	201,469	195,927	▲ 2.8
保有契約年換算保険料	5,065	5,223	+ 3.1



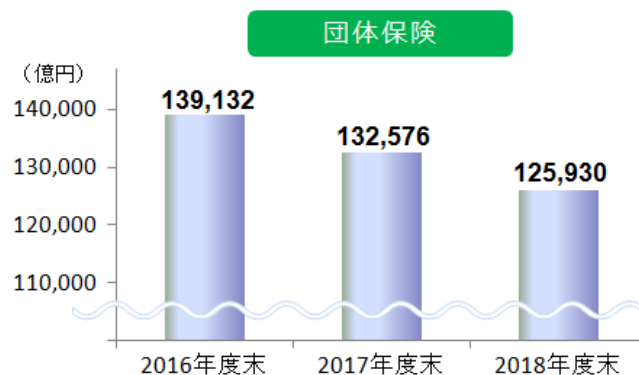
5. 保有契約の状況〔団体保険・団体年金保険〕

- 団体保険は、総合福祉団体定期保険の販売が好調に推移した一方、団体定期保険および団体信用生命保険の保有契約高が減少したことから、前年度末比5.0%減の1兆2,593億円。
- 団体年金保険は、一般勘定の保有契約高が減少したことから、前年度末比2.2%減の8,096億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2017年度末	2018年度末	
		2018年度末	前年度末比 増減率
団体保険 (保有契約高)	132,576	125,930	▲ 5.0
団体年金保険 (保有契約高)	8,276	8,096	▲ 2.2
一般勘定	7,298	7,078	▲ 3.0
特別勘定	978	1,018	+ 4.1

(注) 団体年金保険の保有契約高は、責任準備金の金額。



6. 損益計算書

- 保険料等収入は、日本生命への一時払外貨建養老保険「ドリームロード」の商品供給が奏功したことを主因に、前年度比10.5%増の7,677億円。
- 当期純利益は、内部留保の充実を図るため危険準備金の繰入（超過繰入）を行ったこと、社名変更に伴う費用を特別損失に計上したこと等から、前年度比77.8%減の51億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2017年度	2018年度	
			前年度比 増 減 率
経常収益	9,594	9,353	▲ 2.5
保険料等収入	6,945	7,677	+ 10.5
資産運用収益	2,454	1,446	▲ 41.1
経常費用	8,840	9,087	+ 2.8
保険金等支払金	5,735	5,433	▲ 5.3
資産運用費用	668	511	▲ 23.5
事業費	984	1,046	+ 6.3
経常利益	754	266	▲ 64.7
当期純利益	232	51	▲ 77.8

7. 貸借対照表・健全性

- 内部留保の積み増しや国内外金利の低下に伴う国内公社債・外国証券の含み益の増加等により、ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から61.9ポイント増加の1,132.2%、実質純資産額は、前年度末比9.3%増の1兆3,262億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2017年度末	2018年度末	前年度末比 増 減 率
総資産	73,527	75,046	+ 2.1
有価証券	54,469	57,548	+ 5.7
貸付金	11,215	10,334	▲ 7.8
有形固定資産	2,400	2,372	▲ 1.2
負債	68,308	69,566	+ 1.8
保険契約準備金	61,853	63,510	+ 2.7
責任準備金	60,872	62,631	+ 2.9
価格変動準備金	637	670	+ 5.1
純資産	5,219	5,480	+ 5.0
ソルベンシー・マージン比率	1,070.3%	1,132.2%	+ 61.9 ポイント*
実質純資産額	12,136	13,262	+ 9.3
実質純資産比率	17.0%	18.1%	+ 1.1 ポイント*

(注1) * のポイントは前年度末との差。

(注2) 「実質純資産比率」= 「実質純資産額」÷ 「一般勘定資産」。

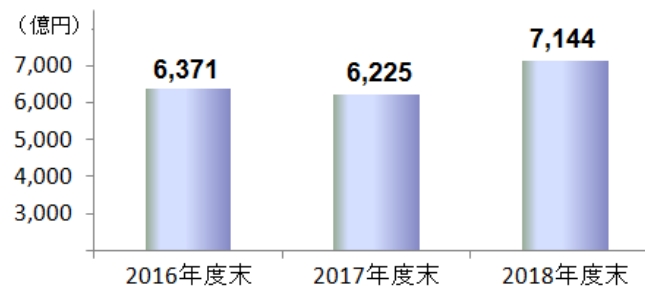
8. 有価証券の含み損益

- 国内公社債は、国内金利の低下により、前年度末から702億円増加。
- 国内株式は、株価の下落により、前年度末から371億円減少。
- 外国証券は、海外金利の低下や株価上昇により、前年度末から603億円増加。
- 有価証券全体の含み損益は、前年度末から919億円増加し、7,144億円。

(単位: 億円)

区 分	2017年度末	2018年度末	
		2018年度末	前年度末比 増減額
時価のある有価証券の含み益	6,225	7,144	+ 919
国内公社債	4,075	4,778	+ 702
国内株式	1,870	1,499	▲ 371
外国証券	200	803	+ 603
その他	78	63	▲ 15

時価のある有価証券の含み益



9. 契約者配当及び株主配当について

- 2018年度決算におきましては、健全性の回復等を背景に、個人保険・個人年金保険の契約者配当を11年ぶりに実施いたします。また同様に、株主配当につきましても実施することを予定しております。

<契約者配当>

個人保険・個人年金保険 … 継続中のご契約者に対する通常配当、並びに消滅時特別配当を実施いたします。
 ※保険契約ごとに配当の有無、配当額が異なります。

団体保険・団体年金保険 … 前年度と同一の水準に据え置きます。

<株主配当>

総額15億円（当社普通株式1株につき15万円）